

1

① 音楽

② 新しい

③ 地図

④ 南北

⑤ 当時

2

1 空

2 雨

2 川

3 大

4 エ

5 B 雲

C 空

D 川

6 I 2

II 1

3

1 た

2 ひろき

3

来

せ

4 ④ オ

⑥ ア

5 A パ

B ウ

C

チ

ヤ

ン

ピ

オ

ン

6 た

配 点	
1	各2点× 5 = 10点
2～3	各5点× 18 = 90点
<計> 100点	

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①の「楽」は「白」の両側を「水」の形のようにしないこと。七画めは下から上にハネルように書く。②の「新」の部首は「斤（おのづくり）」。読み方はほかに「シン・あら（た）・にい」である。③の「図」のなかの「ツ」の部分を「シ」のようにしない。④「南北」は文字通り南と北のこと。「北」の三画めは二画めよりも少し右に出るように書く。⑤「当時」は過去のある時点、そのころ。

②

- 1 「何のうちの」という問い方の意味を正しく理解してほしい。「空から降ってきた雨」のうちの「多く」は「地表を流れ」、「あるもの」は「地中」にしみこむのであった。
- 2 「雨」が「いったん地中にしみこんだのち、ふたたび地表に湧き出し」て流れていくものである。すぐあとに出てくる「水源地を出発」する「無数の流れ」も同じく「川」のことである。
- 3 「空から降ってきた雨」から生まれた「無数の」「小さな流れ」が「次々に他の流れと合流し、水量を増して」できるものである。
- 4 「雲をつく」るのは「水」ではなく「水蒸気」であった。そして「海や湖の水」も「木々についた雨水」も「土の中の水分」も結局は「雲をつく」るのだが、どれか一つだけを答えるのでは「もっともよい」答えにはならない。
- 5 B 「水」が「蒸発」してできた「水蒸気」が「つく」るものである。
- C 「空から降ってきた雨」が「陸」の上を「川」となって流れて「海」に出るのであった。あとの「陸と海」から見当をつけることもできただろう。
- D 「水の循環」は「水」が「C(空)と陸と海の間を、姿を変えながら、いつもまわっている」ことであつた。「陸地」での「水」の「通り道」を考えてみればわかる。
- 6 I 「すべて」がおかしい。「川の水」は「あるものは湖や池にたどりつき、またあるものは海に流れ出ます」とあつた。
II 「地球上の大部分の水をたくわえている海や湖の水」とあつた。

③

- 1 「ほごしゃ会のお知らせ」の話を聞いた人のことである。
- 2 すぐあとの「ひろくん」では「名前」を「正しく」答えたことにならない。
- 3 「お知らせ」の紙をちゃんと持ち帰って「ママ」に「わた」すのを、「わすれて」いたのである。
- 4 ④ まず、いい方からア・イが「パパ」、ウ・オが「ママ」のものだと見当をつけてほしい。これは「ママ」なのでウ・オのどれかになる。「ぱっぱと歩いて」「正面」「背すじをのばして」というところに、きちんとしようという感じが出ている。ウの「物がいえない」、エの「つかれたわ」はふさわしくないだろう。
- ⑥ これは「パパ」なのでアかイになる。「わすれもの」についてお説教をしている「ママ」が「冷蔵庫のドア閉めわすれ」をしてしまったのをみて、「ぼく」にウインクしている。「パパ」は「ママ」のように「失敗」に対してきびしくないのである。
- 5 A すぐ前の「また」がヒントになる。少し前に「となり」の「パパのほうに、おしりをずりずりつとずらした」とあつた。「ママ」が「おこる」から「パパ」にたようとしているのである。
- B 「おこる」ときだからといってア「らんぼうな」になるとはかぎらない。それまでは「もらってないわよね」「どうしてそうわすれてばかりなの？」と、ふつうのいい方をしていたのに、口調がきびしいとはいえここでは「ありません」「しませんでした」のように「です・ます」を用いた「ていねいな」いい方になっている。「おこる」と逆に「ていねいな」いい方になる人はけっこういるものである。
- C 「なる」のが「たいへん」なものが答えになる。もちろん本当に「たいへん」なものではなく、「ぼく」の味方で、「ばく」をかばってくれる「パパ」が、「ママ」には聞こえないように「小さな声」で言ってくれたことばである。
- 6 「けたたましい」は、高くするどい音が大きくひびきわたるようす。「冷蔵庫」の開けっぱなしを知らせる警告音が鳴ったのである。